

平成 24 年度 国際ボランティア貯金センターの支援にかかる
「NGO 講演会等概要レポート」

一般財団法人 ゆうちょ財団
国際ボランティア貯金センター

【NGO講演会等の経費助成】

(平成 24 年度実施概要)

国際ボランティア貯金の寄附金の配分を受けているNGOが学校、地域団体等で、国際協力及び国際支援の意識醸成を図るための講演会等を開催し、自団体の海外での事業活動状況等を説明する場合に、その経費の一部を助成しております。

概要は次のとおりで、申請により当国際ボランティア貯金センターで審査しました。

なお、対象となる平成 23 年度または 22 年度に寄附金の配分を受けた団体には、文書で通知しました。

- 助成する金額は、講演会等 1 回につき所要経費のうち 5 万円を上限。
ただし、助成回数は 1 団体につき 1 年 1 回。
- 助成の対象とするのは、次の講演会等とします。
 - ・ 国際ボランティア貯金の寄附金の配分を 23 年度または 22 年度に受けている団体の講演会等であること
 - ・ 参加者（児童・生徒等を含む）が概ね 30 人以上見込まれる講演会等であること
 - ・ 平成 24 年 5 月から平成 25 年 2 月末日までに開催する講演会等であること
- 助成は申請受付け順とし、4 件の申請があり、3 団体へ助成しました。

Index

1	特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか	1
2	特定非営利活動法人 パレスチナ子どものキャンペーン	3
3	特定非営利活動法人 ラブグリーンジャパン	5
4	アンケート結果	7

(50 音順)

特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか(TIFA)

1. 開催日：平成 24年7月10日
2. 開催場所：とよなか国際交流センター
3. テーマ： ゆうちょ財団助成事業：ネパール NGO 活動報告会
「ネパールの農村女性の自立を助ける活動」
4. 講師：①元繊維商社役員・現在の助成事業指導専門家：小野 仁彦
②ネパール自立会代表・バティ・シュレスタ
③松原高校教諭 山田 正人
同 佐藤 知美 生徒15名
④ネパールダンス・ラクシュミ、マンジュ
5. 参加者：62名
6. 内容：講演①「ドダウリ村の「縫製・機織り技術指導と製品化への取り組みによる生計向上」プログラムの報告」
講演②「サクーでの縫製指導とグマール村の小学校の里親活動」
講演③「ドダウリ村などでホームステイし、交流を深めた松原高校生の報告」
④ ネパールダンスとうた

講演会内容

■講演概要

今年度ボランティア貯金の配分金を受けて開始した事業の報告を中心に、現地の写真展示、ネパールでの活動全般についても報告。その後、プロジェクトを展開している、ドダウリ村でホームステイし、村人、子ども、学生たちと交流した高校生の報告を聞き、地域に住むネパール人高校生が伝統的なダンスと歌を披露しました。

- (1) 講演①「今年度国際ボランティア貯金の配分金を受けて、実施している「ドダウリ村の「縫製・機織り技術指導と製品化への取り組みによる、生計向上」プログラムについて

小野 仁彦（今年度プロジェクト専門家）

パワーポイントを使って現地の様子・訓練生の紹介の後、まず縫製技術の向上を図るため、パイピング付きのクッションカバーを作らせたが、予想以下の技術程度のため、日本で販売できるような物を作るための基本的な指導から始めなければならなかった。

今後は、現地特性の織物を技術向上させて、製品化に向けて行く計画で現在進行中。

- (2) 「サクーでの縫製指導とグマール村の小学校の里親活動」

バティ・シュレスタ（ネパール自立会・代表）

カトマンズからバスで2時間ほど東へ行った所で、縫製指導をしている。

今回訓練生が学校の制服を作り、販売できた。

山の方のグマール村の小学校で、家事手伝いと経済的理由で学校へ行けない子どもに奨学金制度を立ち上げ、全校生徒への給食を始めた。

現地の様子をパワーポイントを使って報告

(3) 講演「ネパール・ドダウリ村でのホームステイと村人との交流体験報告」

講師：松原高校国際科 山田正人先生、佐藤知美先生と生徒15名

引率教師山田先生と佐藤先生がリードして、生徒たち全員が体験報告をした。

生徒たちが作成した、壁新聞を見せながら、道中、現地でのホームステイ、現地小学校・中学校、高校での交流の様子を15名が分担して報告。

現地の人たちと同じ目線での交流体験は、彼らのこれからの大きな影響を与えたようだ。

もう一度訪問して、もっと交流したい・ 将来、現地の人たちに役立つことをしたい・・・など彼らに大きなインパクトを与えたようだ。

計画・引率に尽力された、山田先生・佐藤先生の期待に応えて、生徒たちは大きく成長したと確信する。

(4) ネパールダンスとうた・・・ネパールの二つの民族の伝統的なおどりと歌を披露。

参加者の感想 アンケートから

* 縫製技術指導は大変なことがわかりました。がんばってください。

* N G O の活動がよくわかりました。すばらしいと思います。

高校生たちの活動報告もとても楽しそうでした。

* 松原高校生の皆さんの報告は、とてもすばしかったです。

国際ボランティア貯金の配分事業の概要

■ 支援事業：「住民の生計向上のための縫製・機織技術指導」（ネパール）」

■ 実施期間：平成 24年4月から平成25年3月

■ 実施地域：ネパール・シンズリ郡ドダウリ村

小野氏の報告



松原高校生たちと有志



ネパールダンス



講演会風景



壁新聞を使った高校生の発表



特定非営利活動法人 ラブグリーンジャパン

1. 開催日：平成24年8月2日
2. 開催場所：鎌倉市大船行政センター 学習センター 3F
3. テーマ：「国際ボランティア貯金事業説明会とネパール音楽のタベ」
4. 講師：①氏名 NPO法人ラブグリーンジャパン理事長 相川政夫
②氏名 Mr. Rajiv Ratna Shakya（事業地：カブレ出身）
③氏名 (Mr. Rshan Ratna Kansakar（事業地：カブレ出身）
5. 参加者：48名
- 6 内 容：講演① 「国際ボランティア貯金配分による事業説明」
講演② 「ラブグリーンジャパンの活動を見てきての感想と感謝」
講演③ 「ネパール国の現状と問題点 など」

~~~~~

### 講演会内容

■講演概要 PM6:30 定刻に相川理事長による国際ボランティア貯金配分事業についての事業地での活動報告、ラジーブ氏によるカブレ郡における活動の実態と住民としての感謝を表明、ルシャン氏によるネパール国の問題点とNGO活動の重要性について説明を受ける。そして、出席者より質問を受ける。PM7:35～ネパール音楽を聴く 終了はPM8:50 でした。

#### (1)講演①「NPO法人ラブグリーンジャパン理事長 相川政夫」講師名(所属及び肩書き)

ラブグリーンジャパンの1991年以来、国際ボランティア貯金配分による事業を実施してきたことを説明、昨年度実施された事業、〈有機農法、家畜飼育の事業〉をどのように村で実施してきたかをスライドを使って説明する。そして今後の取り組みについて、協力をお願いする。

#### (2)講演②「Mr. Rajiv Ratna Shakya（事業地：カブレ出身）」講師名(所属及び肩書き)

ラジーブ氏はカブレ郡、パトレケット村の出身であり、現在40歳。両親はLGJの活動に参加している。村が住民参加型の事業によって、随分と変わってきていることを感謝とともに説明する。バイオガスの設置による、代替えエネルギーの活用状態、植林によって緑に対する考え方と住民意識変化、70%近い住民が活動に意欲的である等、説明する。

#### (3)講演③「Mr. Rshan Ratna Kansakar（事業地：カブレ出身）」講師名(所属及び肩書き)

ルシャン氏はカブレ郡パンチカール村出身の38歳（現在カトマンズ在住の音楽家）村に暮らす彼の家族はLGJの現地事務所近くに暮らしている。この20年間で村は変わってきたと説明。ネパールは現在人口2,300万。カトマンズ人口、400万人と都市部に集中するようになってきていて、ライフライン等に大きな問題が生じている。ネパール本来の美しい佇まいは失われつつあることから、LGJによる有機や環境保全の活動は将来的にも重要であると説明する。

講演後は参加者の前にて、感謝を込めてネパール音楽を演奏してくれる機会となりました。今回の演奏会は相川理事長とラジーブ氏との交流から、ネパール人からLGJの活動に感謝する会をもって欲しいとのことから実現しました。ネパールを理解するとともに活動を報告する会としても重要であることを改めて認識しました。

## 国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：有機農法及び家畜飼育の指導（ネパール国・カブレ郡）
- 実施期間：平成23年4月から平成24年3月
- 実施地域：ネパール国 カブレ郡にある パンチカール村、バルワ村、パトレケット村、ラビオピ村、カブレ村



会場の様子：右上はネパール人演奏家による演奏風景

今回の活動報告会は急な計画で実施しましたが、予定した40名を上回る人たちが参加してくれました。活動について具体的な話を聞くことがよかったです。また、ネパール人からの事業への感謝の気持ちを直接聞く機会となり、ラブグリーンジャパンへの関心が深まり、会員登録してくれる方もいました。普段、聴くことがないネパール音楽を生演奏で聞いて、ネパールへの関心も高まり、スタディーツアーの計画など要請がありました。

一部の方からアンケートに回答を頂きましたので、ご参照ください。

## 特定非営利活動法人 パレスティナ子どものキャンペーン

1. 開催日：平成 24 年 9 月 15 日
2. 開催場所：中央大学駿河台記念館 280 号室（東京都千代田区神田駿河台）
3. テーマ：「レバノン難民キャンプの現在と歯科支援」
4. 講師：ムラード・アジャウィ（歯科医師・ラシャディエ難民キャンプ）  
イマド・アジャウィ（歯科医師・ブルジシエマリ難民キャンプ）
5. 参加者：70 名
6. 内容：報告① パレスチナ難民キャンプの現状と歯科事業の概要  
報告② ブルジシエマリ難民キャンプでの歯科の現状

~~~~~

講演会内容

■ 講演概要

忘れられがちなレバノンのパレスチナ難民、数万人が亡くなったレバノン戦争から 30 年経ち、パレスチナ難民キャンプはどうなっているのか、また国際ボランティア貯金の協力で実施している歯科事業の内容と日本での研修についてなどを報告。

(1) 講演①「ムラード・アジャウィ」(歯科医師・ラシャディエ難民キャンプ)

レバノンに住むパレスチナ難民の状況についての説明。自らが住むラシャディエ難民キャンプの場所や人口と年齢分布、長い内戦と侵攻によって受けた被害状況、生活環境の悪さ、レバノンのパレスチナ難民の置かれた立場、市民権が無いこと、経済的や環境によって学校に通えないことなどを統計表や写真を交えて説明。たとえば、パレスチナ難民の 32%が慢性疾患を患っている一方で、キャンプ内には診療所が 1 箇所しかなく、薬が無いなど。

歯科の活動については、当初移動診療所ではじめたが、現在はレバノン内の 5 箇所で行っている。歯科の裨益者の数、検査や治療の内容、予防教育について、また保健教育を大事に思い力を入れていることを説明(1 年間で幼稚園児童 6 千人以上、貧困家庭の子ども 1300 人、お母さん、キャンプの住民など合わせて 12,000 人に対して治療と検診を行っている)。スライドを見せながら、子どもたちの検診の様子や治療の様子などを説明。

また、5 歳で父親を亡くすなど厳しい生活環境で育ったが、キャンプの同胞のために役立ちたいと医療を学んだ自分自身のことにも触れた。

歯科事業の実施、日本での研修、報告会の開催についての感謝。特に、国際ボランティア貯金、パレスチナ子どものキャンペーン、会場の来場者などに感謝を述べた。

(2) 講演②「イマド・アジャウィ」(歯科医師・ブルジシエマリ難民キャンプ)

ブルジシエマリ難民キャンプの概要・現状を説明。場所、人口、就職できないので、住民の 80%が日給制の農業労働者(1 日 5 ドル以下)。キャンプの診療所は 1 つで 1 日 300 人以上の人を診ている。学歴が高くても仕事に就けないので子どもたちが意欲をなくしているなどの状況を写真を交えながら説明。

日本での研修では、大学病院で基本的な技術から最新医療まで受講し、技術的な違いなどもありとても勉強になったことを報告。また、大小のクリニックの訪問や研修などを報告。また、日本の市民に感謝を述べた。

国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業: 難民キャンプにおける歯科診療所運営支援、歯科医等研修及び予防教育の実施
- 実施期間: 平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月
- 実施地域: レバノン

正面入り口 掲示板



講師 左 イマド・アジャウィさん 右 ムラード・アジャウィさん

NGO講演会 アンケート集計結果報告書

【全体:59名回答】

Q1: 開発途上国への支援については、国同士が行っているほかに、本日の講演会等のようにボランティア団体(NGO)が住民等を対象とした支援・援助を行っていることを知っていましたか。

回答内容		回答数	%
1	知っていた	52	88
2	知らなかった	6	10
3	未回答	1	2

Q2: 本日の講演の事業は「国際ボランティア貯金」の寄附金の配分を受けて実施されましたが、事業内容について理解できましたか。

回答内容		回答数	%
1	よく理解できた	31	52
2	まあ理解できた	23	38
3	理解できなかった	1	2
4	未回答	4	7

Q3: 今後もいろいろなボランティア団体が開発途上国の住民等へ支援・援助することは必要だと思いますか。

回答内容		回答数	%
1	必要だと思う	58	98
2	国同士で行うだけで十分	0	0
3	分からない	0	0
4	未回答	1	2

Q4: ボランティア団体は寄附金の配分を受けて活動している話しをしましたが、今後も寄附によりボランティア団体を支援する制度は必要だと思いますか。

回答内容		回答数	%
1	とても必要だと思った	48	81
2	まあ必要だと思う	8	14
3	特に思わない	0	0
4	未回答	3	5

Q5: 今日の講演を聞いて、自分も寄附をしたいと思いましたか。

回答内容		回答数	%
1	したいと思った	34	58
2	特に思わなかった	2	3
3	すでに行っている	21	36
4	未回答	2	3

Q6: 今日の講演を聞いて、ボランティア活動に参加してみたいと思いましたか。

回答内容		回答数	%
1	したいと思った	33	56
2	特に思わなかった	1	2

3	すでに行っている	20	34
4	未回答	5	8

年代別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	未回答
	3%	3%	15%	19%	22%	31%	7%

男女比	男性	女性	未回答
	33%	61%	6%

【講演会の感想(抜粋)】

- ・ 大変勉強になりました。がんばって下さい。私も何か協力したい。(50代/女性)
- ・ 縫製技術指導は大変なことがわかりました。いろいろ工夫してがんばって下さい。(70代/男性)
- ・ よくがんばっている人達がいることがわかった。何か手伝いたい。(40代/男性)
- ・ 高校の皆さんの報告がとても素晴しかったです。(30代/女性)
- ・ 機会があれば参加したいと思っていました。現地の方の話を聞くことは大切です。私達が出来ることを考えたいと思います。(50代/女性)
- ・ 現実の難民キャンプに生きて活動している人の話を聞くことは貴重で有意義な体験であったと思う。
(50代/男性)
- ・ やはり、自国のことばかり考えるのではなく、世界の困っている人のために活動する必要があると思いました。(40代/女性)
- ・ 貴重な機会を頂きありがたかったです。寄附を受けつつ独自の活動をするために、このような活動紹介は必要と思います。時間が短かったです、ありがとうございました。(50代/女性)
- ・ NGOの活動も住んでいる人達に寄り添った心温かいものですね。(40代/女性)
- ・ 現地へ行ってみたい。(50代/男性)

【注】

- ・ 国際ボランティア貯金の制度のような寄附による支援を95%以上が必要だと考えている。
- ・ 上記のことから、国際ボランティア貯金の寄附金配分を受けた団体による講演会(報告会)は、国際ボランティア貯金の有効性や周知度高めるために効果があり、国際協力への興味や実践への情報提供の貴重な場になると思われる。